

Facebook
Twitter
ブログ etc.

ソーシャル メディアで伝わる 文章術

前田 めぐる [著]

秀和システム



インフラとなったソーシャルメディア

日本経済新聞社・日経MJが行った「第1回ネットライフ調査（2012年発表／16〜80歳の男女1万420人を対象）」によれば、対象者の3人に1人が「SNS（フェイスブックやツイッターなどの交流サイト）を活用している」と回答しています。

SNSをはじめとしたソーシャルメディアはいまや、一部のヘビーユーザーだけのものではなく、一般の利用者が活用する情報インフラとなりました。

仕事や交流の場で名刺交換をする

「ツイッターを利用していますか？」

「フェイスブックを使っていらつしやいますか？」

共感のつながり〜ソーシャルメディアを楽しむために

●注意

- (1) 本書は著者が独自に調査した結果を出版したものです。
- (2) 本書は内容について万全を期して作成いたしましたが、万一、ご不審な点や誤り、記載漏れなどお気づきの点がありましたら、出版元まで書面にてご連絡ください。
- (3) 本書の内容に関して運用した結果の影響については、上記(2)項にかかわらず責任を負いかねます。あらかじめご了承ください。
- (4) 本書の全部または一部について、出版元から文書による承諾を得ずに複製することは禁じられています。
- (5) 商標
本書に記載されている会社名、商品名などは一般に各社の商標または登録商標です。

というやりとりがよくあります。電車の中で、スマートフォンを使って、熱心にソーシャルメディアをチェックしている人もよく見かけます。採用活動をフェイスブックページで行う企業も珍しくなくなりました。学生にとっても、フェイスブックのアカウントを取得することは、就職活動の常識となりつつあります。

また、2011年3月11日の東日本大震災では、震災直後に緊急性の高い情報がツイッターで素早く拡散され、ソーシャルメディアが社会的に広く認知されるきっかけとなりました。

👉 ちょっとしたコツを押さえれば、たくさんの人と楽しく交流できる

しかし、その一方で、ソーシャルメディアを使ったコミュニケーションのありかたに悩んでいる人も多いようです。

「とりあえず付き合いでアカウントを取ったけど、何を書いていいか分からなくて開店休業状態になってしまっている」

「ちょっとした言葉の行き違いで、トラブルが起こってしまった」

そんな話をよく聞きます。

というのも、わたしは本業であるコピーライターの傍ら、「ほどよい敬語の使い方」という言葉の使い方についてのブログを運営しているからです。このブログは、おかげさまで1日2000PV以上のアクセスがあります。以前から言葉に関するご相談やご質問をよく受けていたのですが、最近はソーシャルメディアでの文章の書き方についてのご相談が多くなっているのです。

確かに、ソーシャルメディアというのは、自分から情報を発信してこそ効果を発揮するツールです。

これまで仕事で情報発信をしたことがない人にとっては、多少のむずかしさを感じるのかもしれませんが。一般的な書類を書くときの文章と、ソーシャルメディアで発信するときの文章は違うからです。

でも、むずかしく考える必要はありません。

なぜなら、例えば、フェイスブックは当初、学生同士の交流を深めるためのツールとして開発されたもの。そもそも、気むずかしい顔をして特別なことを書くようなメディアではないからです。

「何をどう書けばいいか」という点について、ほんの少し気を配るだけでいいのです。ちよつとしたコツを知るだけで、あなたはソーシャルメディアを通じて、大切な人たちと、楽しく交流できるようになるでしょう。

本書は、そのためのコツをまとめた本です。「何をどう書けばいいか」というだけの話なので、当然、パソコンなどの専門知識は要りません。

👍「伝わりやすい書き方」「誤解を受けにくい書き方」がある

まず、第1章ではソーシャルメディアでの文章の書き方について、基本的なことを説明しています。つまり「どう書けばいいか」の部分です。

とはいえ、**ソーシャルメディアでは、上手な文章を書いたり、細かい文法にこだわったりする必要はありません。**むしろ、ちよつとくだけたくらいの口調の方が、親しみを感じてもらえて、ちよつと良いのです。ですから、国語の教科書に書いてあるような、堅苦しい決まり事についてはほとんど説明していません。

それよりも重視したのは「伝わりやすい書き方」「誤解を受けにくい書き方」についてです。

これを知っているだけで、ソーシャルメディア上でのコミュニケーションが、だいぶスムーズになるはずです。

第1章では、文章を書くのが苦手であっても、すぐにマスターできるよう、最低限身につけたい9つのコツに絞って説明しています。まずは、これらを押さえてみましょう。そして、気軽な気持ちで書いてください。「発信する本人が楽しんで書く」ことは、ソーシャルメディアで文章を書くうえで、大前提でもあるのです。

👍書く内容についてのマナーもある

次に、第2章では「何を書けばいいのか」についてのポイントやマナーについて書いています。

ソーシャルメディアを使う目的は、人それぞれでしょう。

「友人や知人との交流を深めたい」

「人脈を広げたい」

「セルフブランディングしたい」

「集客に利用したい」

「お客様や取引先との絆を深めたい」

などなど……当然、その目的によって「何を書けばいいのか」は変わってきます。

しかし、どんな目的であっても共通して心がけたいこともあるのです。本章では、そうしたポイントについて、6つにまとめて紹介しています。

もし、あなたがとても忙しい人であっても、第1章で紹介した9つの「コツと」、第2章で紹介する6つのポイントだけでも押さえてみてください。ソーシャルメディアでの文章術について、基本的なことが身につくようになっていきます。

👍 5つの目的に応じて、書く内容が決まる

そして、第3章～第7章では、ソーシャルメディアを使う目的に応じて、「何を書けばいいのか」、より具体的なヒントを紹介していきます。

先ほど触れたように、ソーシャルメディアというのは、さまざまな目的で使われます。しかし、突き詰めるなら、それらは次の5つに集約されます。

- ① 「時を記録して発信する場」として使う
- ② 「学びをシェアする場」として使う
- ③ 「共感を育む場」として使う
- ④ 「交流を深める場」として使う
- ⑤ 「個性を表現する場」として使う

例えば、ソーシャルメディアを友人同士の交流に使いたいのであれば、①や③④が当てはまるでしょう。あるいは、ビジネス用途であれば、主に②や④⑤が該当します。

本書では、①については第3章で、②については第4章で、③については第5章で、④については第6章で、⑤については第7章で説明します。

「せっかくソーシャルメディアのアカウントを取ったのに、何を書けばいいかわからなくて開店休業状態」

であれば、これらの章を読んでみてください。まずは、ざっと見出しを眺めるだけでもOKです。それだけでも、きっと、何を書けばいいかのヒントが見つかるはずです。

📱 ソーシャルメディアの可能性は無限大

ソーシャルメディアは、時間的・地理的な制限を超えて、大切なつながりを育み、共感を深めるツールです。

実際に、ソーシャルメディアが普及したことで、わたし自身の交友関係も仕事の幅も、ずいぶん広がりました。せっかく無料でこのような素晴らしいツールが使えるのですから、活用しない手はありません。

ただし、ソーシャルメディアの影響力は、結局のところ、そのメディアでアクティブに活動する人の数に左右されます。より多くの人がソーシャルメディアを積極的に活用することが、それだけ、そのメディアの可能性を広げるのです。

ソーシャルメディアの可能性は、無限です。信頼と共感でつながる、このメディアの世界は、これからさらに楽しく、可能性に満ちたものになるはずですよ。

さあ、ソーシャルメディアの窓を開きましょう。そして、その窓の向こうには、日々の生活をより充実したものにするだけでなく、新たな自分、新たな友達、新たなつながりが広がっているのが見えませんか。そこへ飛び出すチャンスは平等に与えられています。

だからこそ、ひとりでも多くの人に、ソーシャルメディアを使ってもらいたい。楽しんでもらいたい。そう考えています。

本書が、その一助になれば、幸いです。

2013年2月

著者

共感のつながり〜ソーシャルメディアを楽しむために……………3

第1章 文章力がすぐにアップする6つのポイント

- Section. 1 「上手い文章」より「親しまれる文章」……………18
- Section. 2 修飾語と比喩で文章の達人になるう……………24
- Section. 3 ポジ語で言い換えれば、意識が上を向く……………28
- Section. 4 混乱を避け「分かる化」しよう……………32
- Section. 5 接続詞で文章をベクトル発想……………36
- Section. 6 重複を避けるだけで、「大人文」になる……………40
- Section. 7 基本のリズムを使って、次を読ませる……………44
- Section. 8 写実的な文は「食材」で決まる……………48
- Section. 9 思考を揺さぶる「ギャップ」を意識する……………52

第2章 ソーシャルメディアで 気をつけたい6つのポイント

- Section. 1 文脈は人脈。愚痴より「褒め」を……………58
- Section. 2 評論・批評・批判を鵜呑みにしない……………62
- Section. 3 他人をタグ付するときは、一言断りをいれよう……………66
- Section. 4 売り込みNG。「気が向いたら」がちよっぴい……………70
- Section. 5 シンプル敬語&自分専用ガイドライン……………74
- Section. 6 「しないこと」「やめること」を決める……………78

第3章 今日が明日の糧になる。 タイムラインの書き方・活かし方

- Section. 1 ふたつの「時」を意識しよう……………84
- Section. 2 ツイッターはスピードと広がりを意識しよう……………88
- Section. 3 一次情報はスピードと裏付けがポイント……………92
- Section. 4 二次情報は「独自化+カスタマイズ」の視点が大切……………96
- Section. 5 「シズル感」を表現してみよう……………100
- Section. 6 タイムリーに書けないときは……………104

Section. 7	コメントで文章力を磨こう	108
Section. 8	「時」を切り取って写真に添えよう	112
Section. 9	記憶の引き出しを開けてみよう	116
Section. 10	五感で得たことをメモしておこう	120

第4章 学びをシェアしよう

Section. 1	最高の学びは「人」	126
Section. 2	本の感想を書くときのポイント	130
Section. 3	外に出て何かを発見してみよう	134
Section. 4	子どもの目線に戻ってみよう	138
Section. 5	チャレンジしたら残しておこう	142
Section. 6	「わたしも学びたい」と思われるシェアをしよう	146
Section. 7	自分の専門性を活かしてみよう	150
Section. 8	失敗談も語ってみよう	154
Section. 9	「百見は一聞に如かず」で聞く	158

第5章 上手い文章より、共感を呼ぶ文章にしよう

Section. 1	価値の基準を「共感」が変える	164
Section. 2	シェアしたい情報は「共感できる人」が発信している	168
Section. 3	感動が伝わるライティングの「心」	172
Section. 4	「読まれる書き出し」で始めてみよう	176
Section. 5	日常を共有すれば、仕事や暮らしがより充実する	180
Section. 6	「お客様」とも「共感」でつながろう	184
Section. 7	企業キャラクターはソーシャルメディアとなじみがいい	188
Section. 8	「主観」と「客観」の違いを知って書き分けよう	192
Section. 9	リツイートや「いいね」に言葉で返してみよう	196
Section. 10	リアルの会話でも「コメント力」を鍛える	200

第6章 ゆるやかなつながりで「信頼」を育む

Section. 1	「つながりたい人」はどんな人	206
Section. 2	「行きたくなくなるイベントページ」への作り変え方	210

Section. 3	興味や関心が「望む出会い」をフラットに引き寄せる……………	214
Section. 4	オープンな透明性が絆を強くする……………	218
Section. 5	敬意の三角関係に気をつけよう……………	222
Section. 6	承認できない、参加できないときは「見過ごし力」「無視力」「鈍感力」……………	226
Section. 7	「ファンページやグループページ」「イベントページ」でつながりが深まる……………	230

第7章 独自の視点で価値を高めよう

Section. 1	自分の「軸」を持てばブレずに書ける……………	236
Section. 2	ブレない文章には「ファン」がつく……………	240
Section. 3	定点観測して視点を磨く……………	244
Section. 4	「あったこと」「考えたこと」にフォーカスしよう……………	248
Section. 5	3つの工夫＋9つのチェックリストで見直そう……………	252